

平成24年度 県立芦屋特別支援学校 学校評価(年度末)

評価の平均/5×100=□%

5:よく出来ている 4:大体出来ている 3:あまり出来ていない 2:出来ていない

80%以上:A判定 70%以上:B判定

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	自己評価結果			各部・委員会による改善点(評価2の場合は必ず記入)	学校関係者 評価意見
				達成率 %	評価	評価の 平均		
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	1 学校新聞、学部・学年・学級通信等を通して教育活動の情報発信を保護者に行う	88	A	4.4	掲載内容について精査していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での学校の知名度が初年度より高くなってきている。地域のの人に來校してもらおう機会を作り、認知度を上げるとよい。 ・地域イベントが土日開催のため、児童生徒・教員の参加が難しいのはわかるが、受け入れ方の意識を変えることも必要である。 ・個別対応で教員がチームで取り組んでいるのがよい。個別の事例にもっと時間にとれるとよい。個別の事例研修会をしてはどうか。
			2 学校ホームページを通して、教育活動に関する情報発信を広く行う	84	A	4.2		
			3 学校説明会・見学会・オープンスクールを適切に実施する	86	A	4.3	外部の方が求めている情報を把握して、一層の工夫をする。	
		関係諸機関との連携	4 医療・福祉・労働等の関係諸機関との連携を図る	80	A	4.0	ケースカンファレンス等を実施し、企業訪問や体験実習を繰り返してきた。	
	進路指導	進路指導体制の充実	5 児童・生徒を主体とした進路指導を実施する	80	A	4.0	「キャリア教育」の視点に基づいた取り組みが必要である。	
			6 職場体験実習を充実する	82	A	4.1	中学部でも可能な限り校内実習の準備を整える必要がある。	
		職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	7 進路講演会を実施する	78	B	3.9	生徒・保護者対象に卒業生から仕事の経験や近況を聞く会を開催した。	
			8 進路指導に関する校内研修を実施する	78	B	3.9	進路研修会、卒業生の福祉就労先(近隣の施設)への訪問見学会を行った。	
			9 ホームルーム等において進路学習を進める	74	B	3.7	高等部だけでなく、小・中学部でも「キャリア教育」の視点での取組を検討する。	
	教職員の資質向上	校内研修体制の確立	10 年間を通じて計画的に校内研修を推進し、校内における研修体制の充実を図る	84	A	4.2	年間55回の研修会を実施、授業研究を活性化させた。	
	危機管理体制	個人情報の適正な管理	11 個人情報を適切に管理し、流出等の防止に努める	80	A	4.0	個人情報用のシステム等について研修会の実施を検討中である。	
		校内の安全点検の推進	12 校内の安全点検を定期的実施し、事故の防止に努める	82	A	4.1	今後事故が予想される箇所について、事前に改善する必要がある。	
		事故防止策及び緊急対応	13 児童生徒の障害や病気・行動の特性等の実態に応じた事故防止策及び緊急対応策を確立する	80	A	4.0		
	特別支援教育のセンター的役割	外部支援としての教育相談の充実	14 幼・小・中学校の教員や保護者に対する教育相談活動を進める	80	A	4.0	芦屋市、西宮市教育委員会等と連携をとりながら学校園への巡回相談・校内研修に出向いた。様々なケースについて対応できた。	
		校内の支援体制の整備	15 校内の支援体制を整備し、必要に応じてケース会議等を行う	80	A	4.0	学年・クラスから相談を受ける体制を作り、適宜ケース会議を実施した。	
	生徒指導	児童生徒の安全確保	16 校内外を問わず児童生徒が安全安心に過ごせる環境及び体制づくりを推進する	80	A	4.0	校内外における行方不明や事故等に備えた緊急体制をとった。各教室に行方不明時緊急対応マニュアルの掲示と内線電話を各階に設置し、捜索体制を整えた。	
			17 交通ルール、マナーの徹底	80	A	4.0	自力通学生に対して、定期的に登下校時の注意事項を確認する集会を設け、下校指導の充実を図った。	
		生徒指導の充実	18 児童生徒の実態・特性・発達段階に応じた生徒指導の充実を図る	80	A	4.0	個別対応ができる部屋の充実、障害特性に対する職員間の共通理解がさらに必要。	
		特別活動(児童生徒会活動・部活動等)の充実	19 児童生徒会活動・部活動等の充実を図る	86	A	4.3		
	学校における情報化	校内の情報機器の整備	20 コンピュータ等、情報機器を整備し、教職員の誰もが活用できる環境作りを行う	76	B	3.8	使用マナーの徹底、共有ドライブのデータの整理が必要。データサーバーの負担を軽減するため、新たなデータ保存システムを構築している。	
	PTA活動	保護者との連携充実	21 学校行事等の様々な取組においてPTAとの連携を図る	78	B	3.9		
訪問教育	訪問教育	22 QOLを目指した教育上の工夫	84	A	4.2			
		23 対象者の実態を把握し、生活年齢や健康状態に配慮した教育活動を展開する	86	A	4.3	施設の医師・看護師のケース会議にクラス担任が参加し、医療的ケアについて豊富な情報を得、教育活動に生かすことができた。		
		24 学校と施設等の関係者が連携して、この事業を計画的かつ円滑に実施する	86	A	4.3	施設の医師・看護部長・ケースワーカーとの会議を行い、事業を円滑に遂行できた。		
教育課程	個に応じた指導の充実	25 個別の教育支援計画の充実	80	A	4	平成25年度の新入生・転入生から「個別の教育支援計画」の改訂版を使用するが、その活用についてはさらに検討する。		
		26 個別の指導計画の作成と評価の工夫	84	A	4.2	平成25年度より全学部で改訂版「個別の指導計画」を使用する。さらに充実した個別の指導計画になるよう全校で取り組む。		
	教育課程の充実	27 全学部を通じて教育課程の一貫性を図る	74	B	3.7	全学部を見渡した教育課程をイメージしやすくする。学部間の交流や授業見学の機会を増やし、一貫性を持たせる。		
	教育課程等の検証	28 教育目標に向けた教育課程等の検証	78	B	3.9	各学部で授業の改善を加え、最善の形を模索中である。		
	特別活動(学校行事)	29 学校行事の精選と行事内容の充実	80	A	4.0	児童生徒の健康安全面に配慮し、来年度から運動会と学習発表会の開催時期を見直した。しかし、今後も検証が必要である。		
課題教育	防災・安全教育	30 防災マニュアルの作成	78	B	3.9	東日本大震災に係る被災地支援事業研究の指定を受け、本校の児童生徒・立地状況等に対応し、各想定に応じた防災・危機管理マニュアルを作成できた。		
		31 防災・避難訓練の充実	78	B	3.9	津波を想定して、校舎3階への避難訓練を実施した。地域と連携した防災訓練が次年度への課題である。舞子高校防災科との共同学習などを継続して、生徒・教師とも防災意識を高めていく必要がある。		
	図書視聴覚サービスの向上	32 図書館利用環境の整備	74	B	3.7	学校図書の希望を取り、蔵書・各種メディア・利用環境のさらなる充実が必要。		
	人権教育	33 人権教育推進体制への取り組み	74	B	3.7	小・中・高を見通した教育計画・学部を越えての実践交流等も進めていく必要がある。学部全体での指導体制を構築できればよかった。		
		34 確かな人権意識の育成	78	B	3.9	授業内容や教材の発掘にも力を入れる必要がある。低学年にも理解しやすいように兵庫県道徳副教材の紙芝居化を続けている。		
		35 教職員の人権意識の確立及び指導力の向上	76	B	3.8	全体研修会として講演会を2回(発達障害、問題行動)、人権研修会を1回実施した。		
	情報教育推進	36 効果的なコンピュータの活用能力を身につける	78	B	3.9	個人情報の管理についてはより一層の啓発が必要である。		
		37 情報の公開を進める	84	A	4.2	分かりやすく見やすいデザインを工夫し、新着情報を随時迅速に発信している。各分掌より多くの情報が寄せられ、ホームページの更新に役立った。		
	交流及び共同学習	38 学校間交流等の充実	80	A	4.0	内容や回数を検討する必要があるが、教職員・保護者共に昨年度よりも理解されている。		
食育・給食指導	39 給食指導を中心とした食育の推進	84	A	4.2	個々に応じた指導がきめ細やかに行われている。給食指導事例集を作成し、情報交換や相談ができるようにしている。			